

平成7年度病害虫防除基準（水稻）の主な新規採用薬剤とその使用法

（農試 環境部）

1 背景とねらい

最近の防除法の多様化，病害虫の発生動向の多様化などから，これらに対応した的確な防除法の開発とその実用化が望まれている。

新規登録農薬等について検討した結果，本県の病害虫発生様相，防除効果および安全性の問題からも，適用性が高いと考えられる薬剤を防除基準に採用したので，薬剤の特性，使用法について解説して指導上の参考に供する。

2 技術内容

平成7年度病害虫防除基準に新たに採用した主な農薬およびその対象病害虫は，以下のとおりである。また，その使用法と使用上の留意点は表1に示した。

(1) 農業用無人ヘリコプター利用による害虫防除

ア MEP乳剤・・・・・・・・・・・・・・・・カメムシ類

イ エトフェンプロックス乳剤・・・・・・・・カメムシ類、ツマグロヨコバイ、ウンカ類

(2) カスガマイシン液剤・・・・・・・・・・・・もみ枯細菌病

(3) フェリムゾン・フサライド水和剤・・・・・・・・紅変米

(4) フェリムゾン・フサライド水和剤（ゾル）・・・・いもち病（航空散布剤）

(5) フサライド水和剤（フロアブル）・・・・・・・・いもち病（航空散布剤）

3 指導上の留意事項

表1に示した。

表1 平成7年度病害虫防除基準に採用した主な農薬の使用法と使用上の留意点

農薬の種類 [農薬名](成分量)	対象病害虫	使用法	使用上の留意点
MEP乳剤 [スミチオン乳剤] (30%)	カメムシ類 (斑点米)	無人ヘリコプター散布 カメムシ類 防除時期：出穂始めから出穂20日後 防除方法：8倍液を800ml散布	1. カメムシ類、ウカ、ヨコバイ類等は、発生源に隣接した圃場や、山間の沢沿い等で、局地的に発生しやすいので、無人ヘリコプター散布は、そのような圃場に限り行うことが望ましい。 2. 殺菌剤との混用は可能であるが、トボコソアールはカスガマイシン、モンカトフロアブルと混用しない。 3. トボコソアールは蚕に対する残毒性が強いので養蚕地帯では使用しない。 4. その他注意事項は、平成4年度参考事項を参照のこと。
エトフェンプロックス乳剤 [トレボンエアー] (10%)	カメムシ類 (斑点米) ツマグロヨコバイ ウンカ類	ツマグロヨコバイ・ウカ類 防除時期：穂孕期～出穂期 防除方法：8倍液を800ml散布	
カスガマイシン液剤 [カスミン液剤] (2%)	もみ枯細菌病	散布時期：播種後覆土前 防除方法：霧なしノズルを用いて4～8倍液を箱当り50mlかん注する。	1. 播種作業の中に容易に組込めるため、育苗センター等で大量に処理することが可能である。 2. 苗立枯細菌病に対しても防除効果が高い。
フェリムゾン・フサライド水和剤 [ブラシン水和剤] (フェリムゾン 30%) (フサライド 20%)	紅変米	散布時期：出穂期、登熟期 防除方法：1000倍液を100～150 散布する。	1. いもち病、ごま葉枯病、紅変米の同時防除が可能である。 2. フェリムゾン・フサライド水和剤の使用時期は、収穫30日前までなので注意する。(粉剤は収穫21日前まで)
フェリムゾン・フサライド水和剤 [ブラシンゾル] (フェリムゾン 20%) (フサライド 15%)	いもち病 (航空散布剤)	散布時期：7月下旬～8月下旬 防除方法：原液120ml散布	3. 本剤およびフェリムゾンを含む薬剤の総使用回数は2回以内に制限されているので注意する。 4. 同一防除剤の連用は避け、計画的に使用する。
フサライド水和剤 [ラブサイドフロアブル] (20%)	いもち病 (航空散布剤)	散布時期：7月下旬～8月下旬 防除方法：原液120ml散布、または薬剤120～150mlを水で800mlに希釈して散布	1. 水系製剤に改良されたため、保管が容易で、環境に対する影響が少ない。 2. 同一防除剤の連用は避け、計画的に使用する。